

日本は女性が働きにくい？

朗読者 中澤裕子

10 イギリスの『エコノミスト』誌が2018年に出した「ガラスの天井指数」ランキングをご存知ですか。ガラスの天井とは、女性の社会進出を妨げる「見えない壁」のこと。そのランキングは、OECD（経済協力開発機構）の29の加盟国が対象となっています。「女性が働きやすい国」では、日本は前年に引き続き、下から二番目の28位。その理由は、学歴がほぼ同じでも社会参画に大きな格差があること、女性管理職が一割程度しかないこと、が挙げられています。

15 世界一男女平等と言われるアイスランドでは、女性議員が議会に子連れで出席したことが話題になりました。この国では、子連れで会社に行くことは当たり前。さらに、従業員50人以上の会社は、女性管理職を4割以上にすることが、法律で義務づけられているというのです。そんなアイスランドも、40年ほど前までは日本と同じで、家事育児は女性の仕事とされ、女性の賃金が男性より安かった国。しかし、話し合いを重ね、男女格差を見直し、今や世界一男女平等な国と呼ばれるまでになったのです。

20

一方、私たちの日本はどうでしょう。例えば、女性トイレに入つたとき、フックがなくてカバンの置き場所に困ったことはありません

んか。オムツ台を置いていない男性トイレも多く、そういった施設やサービスを生み出す現場で、女性の声をもっと取り入れられたら、みんなにとって利用しやすい快適な空間になるのではないでしょうか。

家事や育児をしながら働くことは、簡単なことではありません。性別で役割を決めるのではなく柔軟に家事や育児をおこなって行くことが女性が働きやすい国への第一歩になるのではないのでしょうか。家族や勤め先など、社会全体で支え合って行くことが大切なのです。いつか日本も「女性が働きやすい国」と呼ばれるようになりたいですよね。